



平成18年救急・火災報告

松前消防署での、平成18年中の管内における出動件数をまとめました。

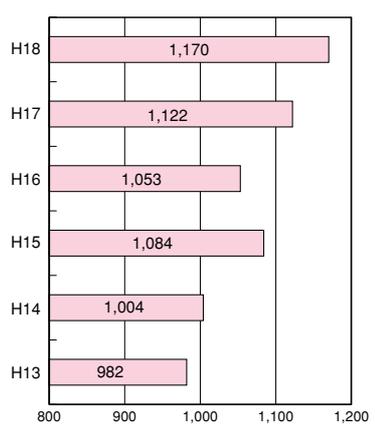
救急

平成18年中の松前消防署の救急出動件数は、1,170件で過去最高の件数となっています。
(松前消防署の救急車出動中などにより他の消防署へ応援出動要請した件数は122件となっており、松前消防署管内の救急出動要請件数は1,292件となっています)

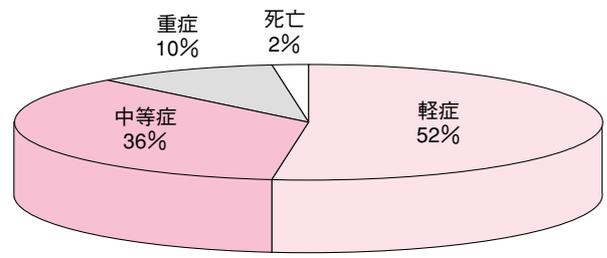
次に救急出動の内訳を見ると、急病709件、交通事故153件、一般負傷121件、自損27件、労働災害14件、運動競技13件、加害3件、火災によるもの2件、その他128件となっています。

傷病の程度では軽症52%、中等症36%、重症10%、死亡2%となっていますが、軽症の割合が全体の半数以上を占めており、依然として安易な救急車の利用が多数を占めている結果となっています。

◆年別救急出動件数推移表◆



◆平成18年中の救急搬送者傷病程度内訳◆



死亡・・・初診時において、死亡が確認されたもの
 重症・・・3週間以上の入院加療を必要とするもの
 中等症・・・入院を必要とするもので重症に至らないもの
 軽症・・・入院加療を必要としないもの

火災

平成18年中の火災件数は13件、火災損害額は1,147万8,000円となっています。
内訳は建物火災9件、車両火災2件、その他火災2件で、火災による負傷者は1名、死者は1名となっています。

また、その他の出動は151件となっており、そのうち救急隊支援出動は109件となっています。

● 女性消防団の「ちょっといい話」 ● <第9回>

まだまだ寒さが続きますが、今月は暖房器具の使用に伴って増加する「やけど」についてお話しします。

やけどは「熱傷」とも言い、熱や薬品、電気や放射線などで皮膚が損傷することを言います。熱いものを触って「熱っ!」と言うのが一般的ですね。

人間の皮膚は約45℃以上の温度のものに触れると皮膚内の組織が破壊されてやけどを起こし、その範囲や深さによって症状が変わります。

また、44℃以下の熱でもやけどを起こします。「低温熱傷」と言われるもので、42℃以上の温度のものが長時間(約6時間以上)体に触れることによって起こるやけどです。使い捨てカイロや湯たんぽ、電気カーペットによってよく起

こります。このやけどは「ジワジワ」と「やけど」しますので、見た目より熱が深いところまで到達する可能性がありますので注意が必要です。

予防策として具体的には、「使い捨てカイロを直接肌にあてない」「電気カーペットの上では長時間眠らない」「湯たんぽは必ずタオルなどで包む」などが挙げられますが、触れないほど熱くないからといって油断をしないことがなにより重要です。

やけどになったときの応急処置としては、とにかく流水で冷やすことです。また、衣服の上からやけどをした場合は、衣服を脱がさずに直接水を流すようにしましょう。